

平成30・31年度 文部科学省指定「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」
熊本県教育委員会指定「熊本県道徳教育研究推進校事業」
令和元年度(平成31年度) 上天草市教育委員会指定「生きる力推進事業モデル校補助事業」

上天草市立阿村小学校

研究 主 題

自律した児童の育成を目指す 道徳教育の充実

～考え、議論する道徳科の授業づくりと体験活動や
各教科等と道徳科の関連の工夫～



体験活動等
との
関連の工夫



発問の構成及び
発問の工夫

私たちが紹介します



あきくちゃん だいばくん きりてくん

期日 令和元年11月27日(水)

ごあいさつ

本校は、昨年度より文部科学省・熊本県教育委員会・上天草市教育委員会の指定を受け、研究を進めて参りました。本研究の特色は、①授業構成や発問の工夫により、児童が自分事として考え方や思いを議論し合い、道徳的価値に向き合う授業づくりと、②教育活動全体と道徳科の学習を関連させることで価値の自覚の深まりを図るという点です。児童と教職員が道徳教育の目標を理解し意識しながら、日々の学校生活を送っています。ここに、研究の一端を紹介し、皆様からの御指導御助言を仰ぎながら、今後の研究を一層推進する所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

上天草市立阿村小学校 校長 坂本 和子

研究の構想図

学校重点目標

「生命の尊さ」
「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」



学校教育目標

ふるさとを愛する自立(自律)した阿村っ子の育成
～笑顔いっぱい、知恵いっぱい、元気いっぱい～

各学年の重点目標

低学年「節度、節制」
中学年「友情、信頼」
高学年
「よりよい学校生活、集団生活の充実」

自律した児童とは

(教師の捉え方)
道徳的な価値基準に基づいて、思考・判断できる子供



本校の道徳教育の目標

主体的な判断に基づいて道徳的実践を行い、
自律した人間として、他者と共に
よりよく生きる基盤となる道徳性を育む。

研究主題

自律した児童の育成を目指す道徳教育の充実
～考え、議論する道徳科の授業づくりと
体験活動や各教科等と道徳科の関連の工夫～

自律した児童とは

(児童の捉え方)
自分の心は自分が決める



本校における 「考え方、議論する道徳科の授業」とは

自分の考え方を持ち、協働的に話し合い、多様な価値観にふれることで、道徳的価値の理解を図り、それを基に自己を見つめ、道徳的価値の自覚を深める授業。

体験活動や各教科等との 関連の工夫とは

教育活動全体と道徳科の関連を明確にし、
ねらいとする内容項目を意識して指導していくこと。

研究の仮説 1

教材を自分との関わりで捉え、多面的・多角的に考えることができるような発問の構成や発問の工夫を行えば、考え方、議論する道徳科の授業展開をすることができ、児童の道徳的価値の自覚を深めることができるであろう。

視点1 授業づくり

- ①発問の構成及び発問の工夫
- ②児童のよさや道徳的成長を見取る評価の工夫

研究の仮説 2

共通体験を道徳科の授業に生かす基盤づくりとして、体験活動や各教科等と道徳科の関連のさせ方を工夫すれば、道徳的価値への感じ方や考え方方が深まり、道徳的問題への意識が高まるであろう。

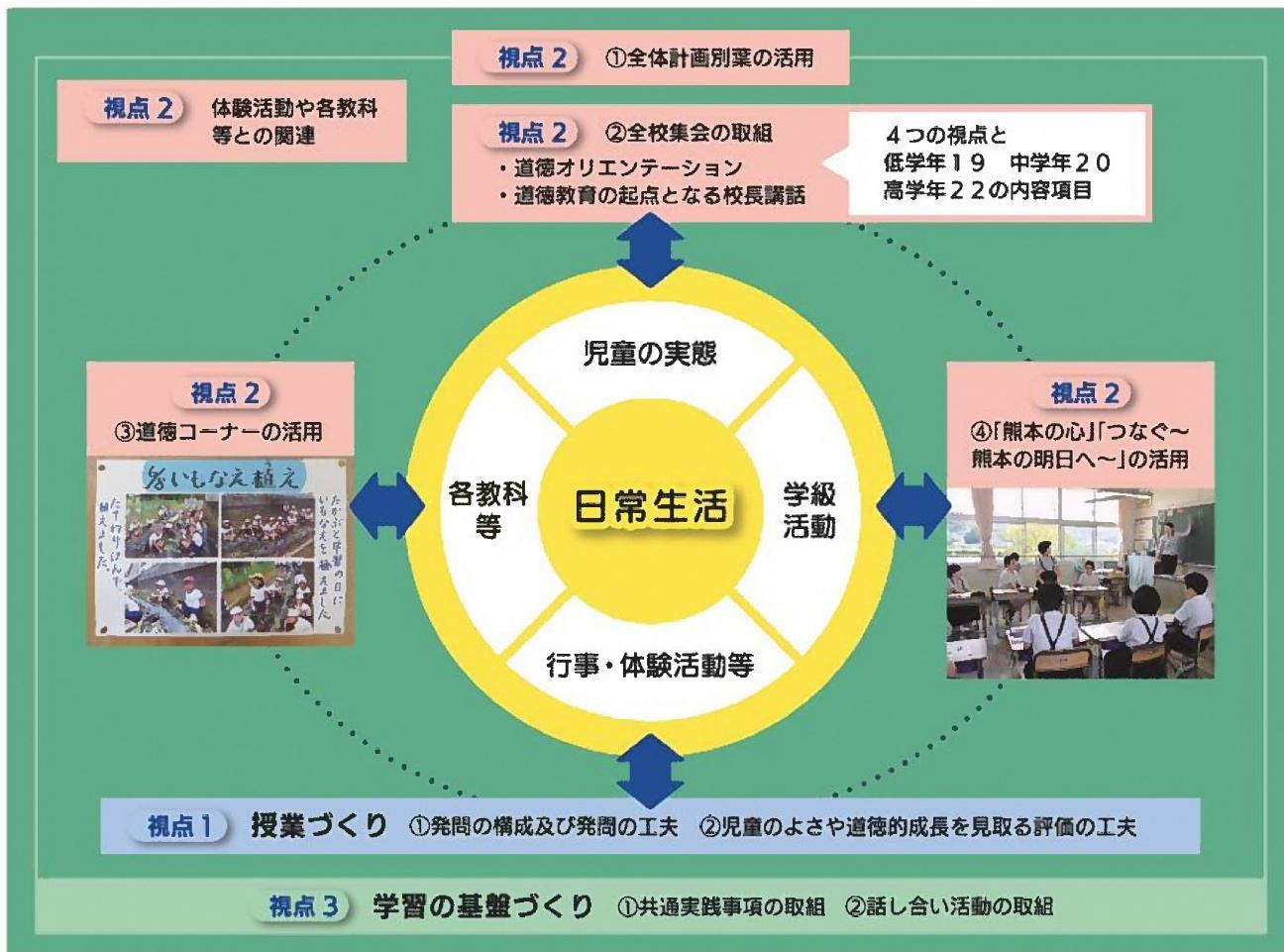
視点2 体験活動や各教科等との関連

- ①全体計画別葉の活用
- ②全校集会の取組
- ③道徳コーナーの活用
- ④「熊本の心」「つなぐ～熊本の明日へ～」の活用

視点3 学習の基盤づくり

- ①共通実践事項の取組
- ②話し合い活動の取組

研究の関連図



本校の道徳の授業づくりの大きなポイントは「発問の構成及び発問」の工夫にあります。「考えること」を提示し、「基本—中心—補助」から「大切」へとつながる発問構成は、児童が教材を理解し、本時のねらいに迫る問い合わせへの考え方を持ち、それをもとに話し合い、「自分の大切」をまとめるという、考え、議論する道徳科の授業の姿を構成するものです。発問の工夫点は、特に中心発問の「全ての児童が考えを持つことができること」「教材を自分との関わりで捉えること」「多面的・多角的に考えること」という視点を満たす「自己の選択をもとに考えさせる発問」です。

評価に関しては、全職員で評価の観点を共通理解し、道徳科の授業に取り組んでいます。また、複数の職員で道徳科の授業を参観し、児童のよさや成長を伝え合う取組も行っています。



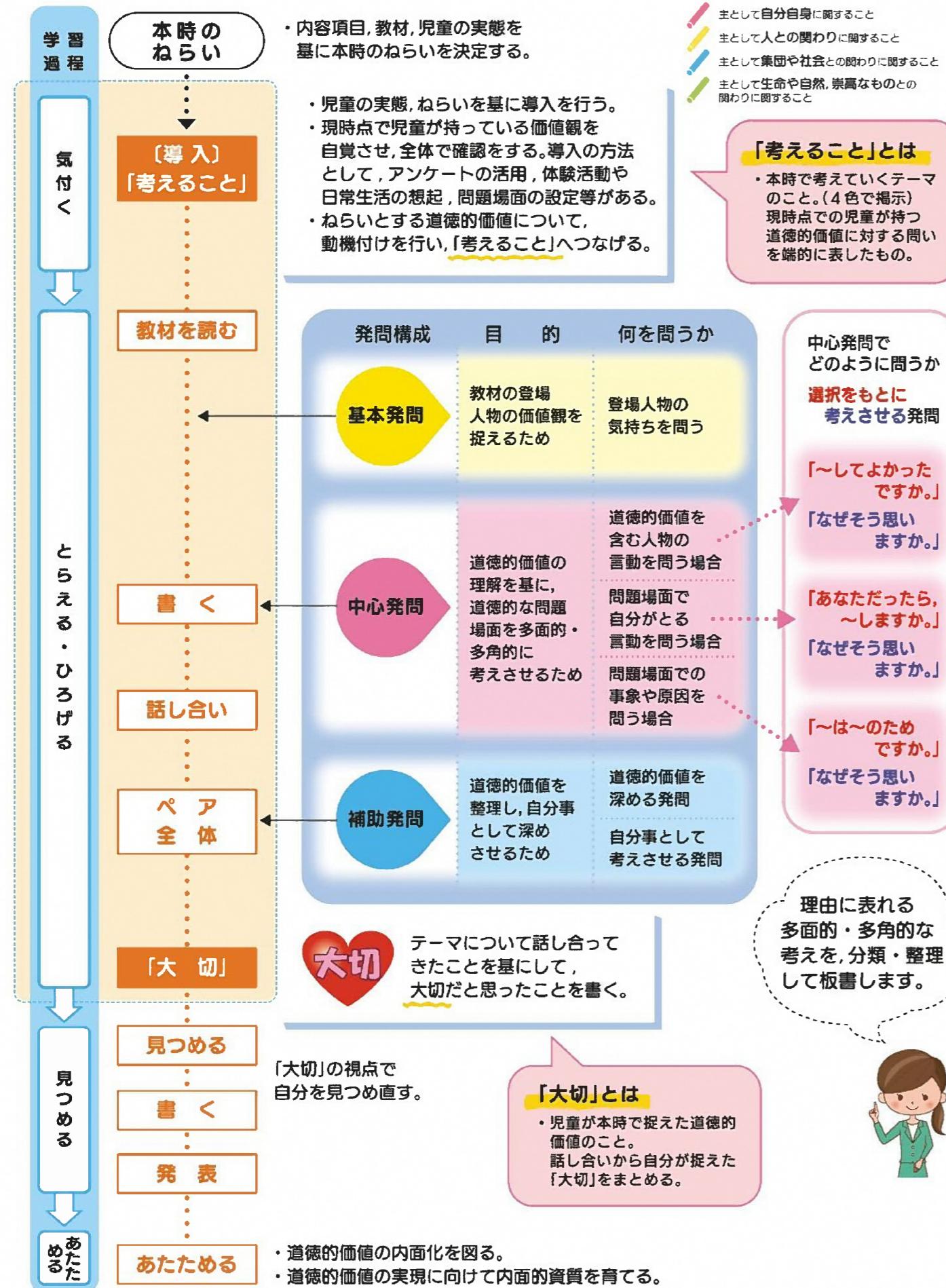
体験活動との関連では、全校集会の取組が本校の特色です。道徳オリエンテーションを始め、全体計画別葉に沿った実践の中で、全校集会の活用を図っています。全校集会を、学校全体で行う体験活動の起点として、体験活動から学ぶ道徳的価値を明確にし、体験活動を充実させながら、日常生活や道徳科へつなげるように位置付けています。

また、「熊本の心」や「つなぐ～熊本の明日へ～」の資料の活用も体験活動や全校集会と関連させながら取り入れています。

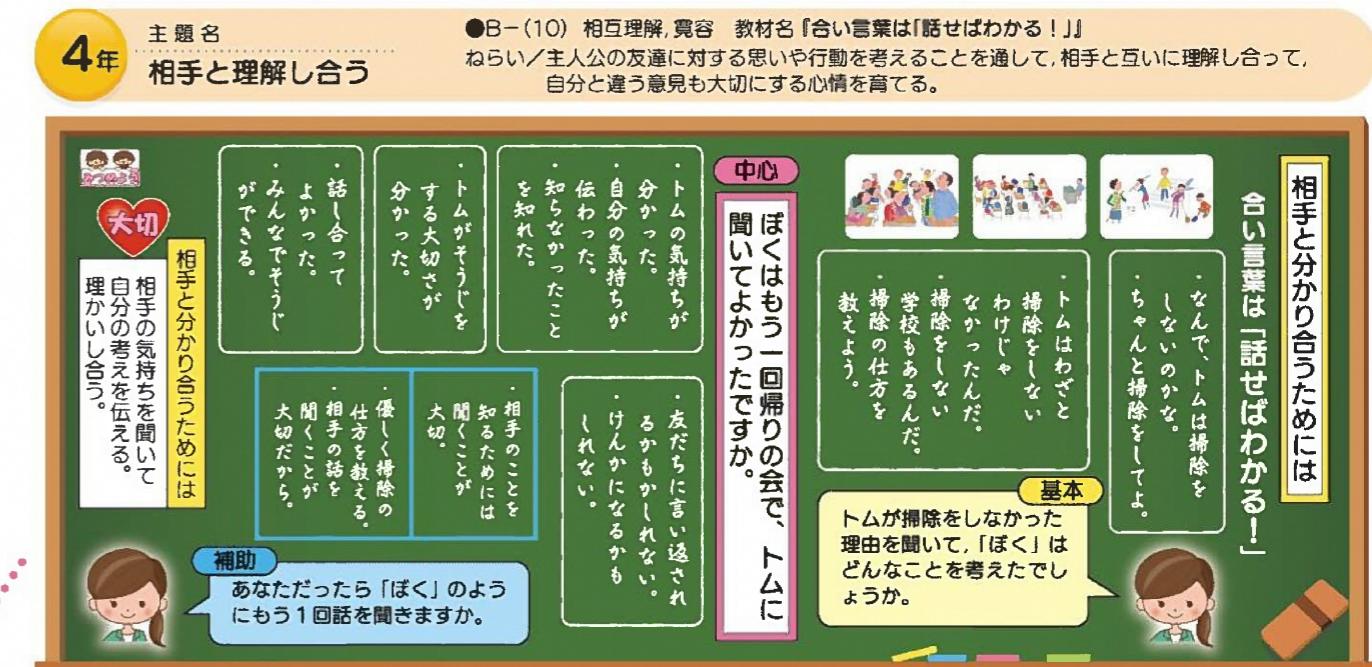


学習の基盤づくりとして、「学習の10のきまり」の共通実践を行っています。児童も教師も共通理解する時間をもち、共に高めるという意識をもって、定期的に振り返りを行っています。また、話し合い活動の充実に向けて、各学年の系統を共通理解し、全教科で実践しています。

視点1－① 発問の構成及び発問の工夫



「発問の構成の工夫」の実際



ねらいと児童の実態から「相手とわかり合うためには」という「考えること」を提示する。基本発問では、教材を読んだ後に、主人公の気持ちを問い合わせ、発表させる中で、相手の立場や思いを理解することの大切さについて気付かせていく。そして、中心発問について自分の考えを書き表し、伝え合う活動を通して、望ましい人間関係を構築するためには、自分の考え方や意見を伝えるとともに、自分とは異なる意見についても理解しようと努めることが大切であることを捉えさせていく。さらに、補助発問では、ペアで話し合う活動等を取り入れ、自分事として考へさせ、価値(本時の「大切」)を捉えさせていく。

このような発問構成(学習形態等も含めて)により、他者と対話したり協働したりしながら、道徳的価値の理解について自己を見つめ、自分の生き方についての考え方を深めさせていく。

「発問の工夫」の実際

- ◎中心発問では、「よかったかどうか(例)」、そして、「その理由」というように、自己の選択をもとに考えさせる。
どの児童も自分の考え方と理由をもつことにつながり、多様な考えが出されることになる。その結果、交流活動が活発になり、さらに出された考えを児童の目に見える形に分類・整理することで多面的な見方へと発展させていく。



中心発問「ちえのおかげで…。」と聞くことで、ちえのおかげ、あいちゃんのおかげ、二人の力等、多面的・多角的な考えが出された。また、補助発問「1番にならなかったら、こんなに仲良くなれないですか。」を聞くことで、一番になることよりも、協力することの素晴らしさに気付き、本時の価値理解に迫ることができた。

中心発問「あなただったら…」と問うことで、自分だったら厳しい練習に耐えられない等の人間理解につながった。また、最後まであきらめない等の価値理解につながる意見も出た。更に、補助発問で栄光闘争の生き方の素晴らしいところを考えさせたことで、本時の深い価値理解につながった。

視点1-②

児童のよさや道徳的成長を見取る評価の工夫

教師が児童一人一人の人間的な成長を見守り、児童自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価していくために、以下のような評価の視点で、様々な方法を用いて児童のよさや成長を見取るようにしている。

評価の視点

- ・児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- (1) 道徳科の授業で
・授業の話し合う場面と見つめる場面
　　発言 学習シート

- ・複数の教師の授業への参観
　　2週間に1回、計画的に担任外や隣接の学年の職員で授業を参観し合い、児童の伸びや変容をとらえ、担任に返すようにしている。



- (2) 体験活動との関連で
　　こことのノート 日記 作文 からの見取り

～児童の心のノートより～

私は、登校班のあいさつはよくできたと思います。理由は、朝、集合場所で笑顔であいさつができるからです。それに、わたしがあいさつをしたら、みんなが笑顔であいさつを返してくれたからです。だから私は登校班のあいさつがよくできたと思います。

これからは、自分から班のみんなに実顔で大きな声で、あいさつをして、下級生のお手本になりたいと思います。

- (3) 児童の自己評価で
・学期に1~2回のアンケート
・目標設定と振り返り(こんな自分になりたい)



視点2-①

全体計画別葉の活用

道徳コーナーの活用

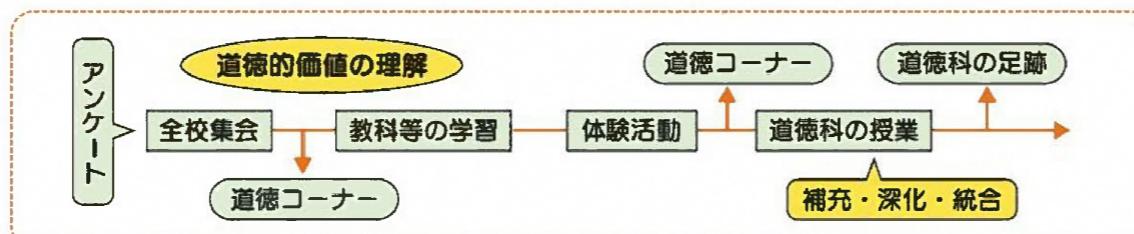
視点2-②

全校集会の取組

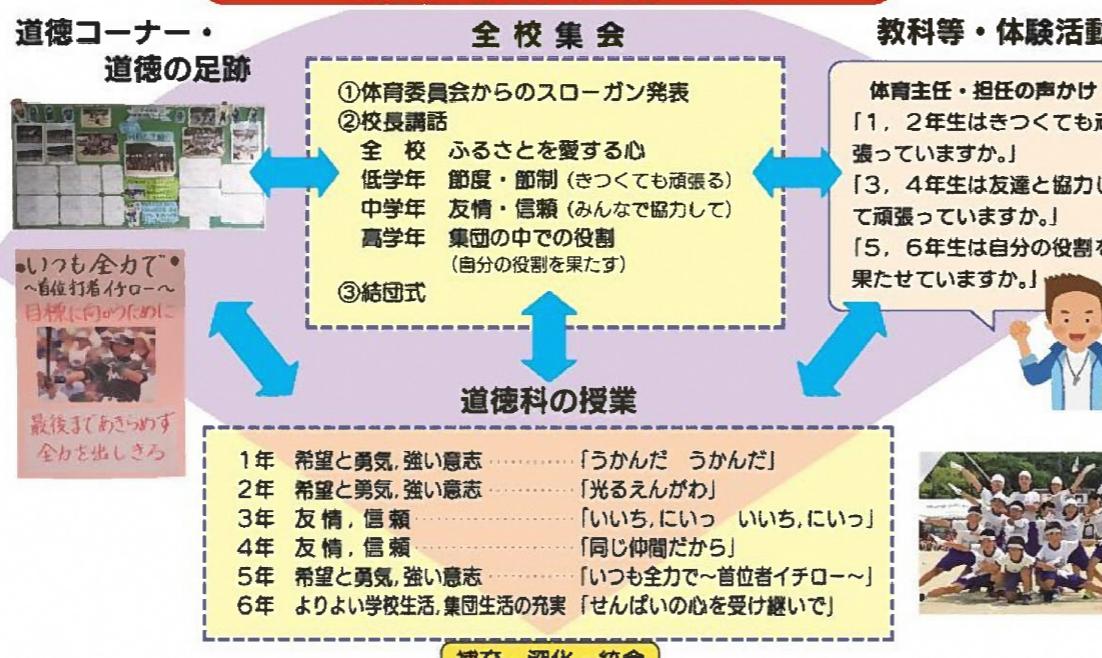
全校集会での道徳オリエンテーションの実施



全校集会を起点とした学校全体での取組



取組例(運動会に向けて)



体験活動が、児童の心を育てる豊かな体験となるように、全校集会を起点として全教育活動における道徳教育の充実を図った。運動会等、練習期間がある学校行事について練習開始に合わせた全校集会を行った。

平成30年から阿村小・阿村地区合同運動会を実施している。児童の目を地域に向け、ふるさとを愛する心を育む絶好の機会であると考え、各学年の重点目標とふるさとを愛する心を育てるという意識を児童に持たせる全校集会を行った。また、2週間の練習期間中は、教科や体験活動で育てた心を補充・深化・統合する道徳科の授業を設定した。更に、道徳コーナー、道徳の足跡を活用し、児童の意識化を促した。

視点2-④

「熊本の心」「つなぐ～熊本の明日へ～」の活用

視点2の①②③との関連で活用を図る。

視点2-①との関連

6月の「たかぶと学習(地域学習)」の日に、全学級「熊本の心」を活用した授業を実施



5年生「大関栄光」 天草出身の大関栄光の生き方から、目標に向かってあきらめずに努力することの大切さを学びました。

視点2-③との関連

新聞記事と「熊本の心」を合わせての掲示



視点2-②との関連

4月の地震津波避難訓練後に全学年「つなぐ～熊本の明日へ～」の授業を実施



熊本地震、東日本大震災との関連で、全学級、4月と3月に「つなぐ～熊本の明日へ～」の授業を計画



松島中学校での防災会議の報告と「つなぐ～熊本の明日へ～」のDVD視聴

視点3 学習の基盤づくり

①共通実践事項の取組



5月に規律集会を行い、学習のきまりのポイントを全校で共通理解しました。
6年生が授業の様子を再現してくれました。

| あわらしょう | がくしゅう |
|---------------------------------|-------|
| 阿村小10の学習のきまり | |
| 1 節目の中をそろえよう | |
| 2 1分間静寂 | |
| 3 選りのあいさつなごをはじめて「お腹いします。」 | |
| 4 手はピンと耳につけよ舉げよう | |
| 5 めあこはすばやくていねいに書き、字をそろえて読みもう | |
| 6 正しい姿勢は、う二、へ二、ひ二 | |
| 7 和やかに話すことを考えて聞きこう、自分の意見を述べて聽こう | |
| 8 高く高く飛ぶる芽真をしよう | |
| 9 読むときのあいさつも心をこめて | |
| 10 休み時間の静けさ、読の静けさを守る | |

②話し合い活動の取組

話し合い活動の子供の姿を共通理解し、授業の中で声をかけながら、児童の意識を高めています。

話し合い活動における子供達の姿 - 学年間の系統性 -

高学年

- ・相手の考えが納得できるものか、考えながら話を聞く。
- ・話し合って、考えを広げたり、深めたりする。
(相手の立場をもとに／根拠や理由が確かなものか)

なぜ、あのよなな考えになつたんだう?



中学年

- ・自分の考えをもとに友達の話を聞く。
- ・考えをまとめたり、自分の考えをよりよくしたりする。
(考えを比べる／よさを探す)

自分の考えをよくする
考えはないかな?



低学年

- ・相手の伝えたいことに関心をもってきく。
- ・話し合いでお返しができる。(復唱／感想／質問)

どうしてそう思うの?

成果と課題

○成果 ●課題

視点1 授業づくり

- 発問の構成や工夫を行った結果、7月の児童のアンケートで「友達の考えを理解しようと聞くこと」や、「道徳での学びを生かしていきたい」という項目に関して、意識が高い傾向が見られた。発問を工夫することで、多面的・多角的な考えが出され、友達の考えを聞いてみたいという意識が高まってきたと考えられる。また、授業の中で道徳的価値を自分事として考える発問や問い合わせをすることで自分の生活に生かしていきたいという意識につながったと考える。

○問い合わせの方法として、「～はよかったです。」「あなただったら～するか。」等を行うことによって、考え方を持つことを苦手とする児童も、理由まで書くことができ、話し合いに参加することができていた。

○評価に関しては、複数教師での参観によって、児童の考え方や発言の伸びの気付きが増えたことがよかった。また、児童自身も「こんな自分になりたい」の取組で自分を振り返ることによって、自分の伸びに気付くことができていた。

○「ねらい」から「本時の大切」を明確にし、中心発問、補助発問、基本発問、そして構成を考えた授業づくりを行うことは、確かな教材分析につながる等、教師の意識調査においても成果が見られた。

●道徳の授業を好まない児童や進んで発表することが苦手だとう児童の理由の検証を行い、授業づくりの工夫を更に進めていきたい。



視点2 体験活動や各教科等との関連

- 全体計画別葉の作成と活用を行ったことで、内容項目との関連に関する教師の意識が高まった。行事や各教科等で道徳的価値を意識しておくことで、教師が児童にかける言葉が変わり、児童もそれを意識して活動することができた。また、道徳科の授業でも体験活動等を思い出しながら、道徳的価値について考えることができた。

○全校集会を起点として、道徳的価値の意識付けを行ったことで、全校で共通理解することができ、児童も心の伸びを感じることができていた。

○「つなぐ～熊本の明日へ～」を活用した授業を、地震津波避難訓練と関連させて行ったことや、中学校の防災教育との関連を図ったことで、本校の重点目標でもある「生命の尊さ」の意識を高めることができた。



おわりに

本校では、「自律した児童の育成」を最大の目標として研究してきました。

「発問構成や発問」を工夫し、自己の選択をもとに一旦立ち止まって、考え、話し合うことで、道徳的価値の自覚を深める授業づくりや教育活動全体と道徳科の関連を明確にした指導に取り組んできました。

これまでの研究や授業実践には、まだまだ改善の余地が充分あると思います。しかし、右にあります一年生の作文からうかがえるとおり、日々の授業や生活の様子からは、これまでの研究・実践を通して、子供達の内なる力の高まりを感じているところです。

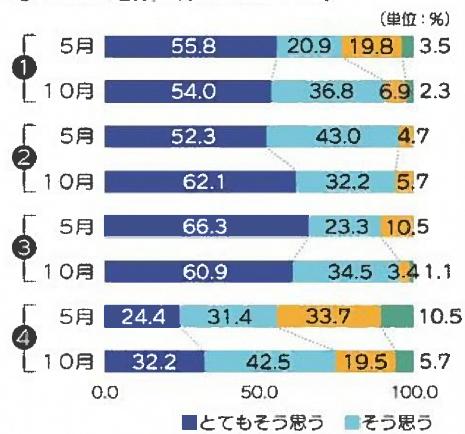
今後も研究の成果と課題を明確にし、価値に基づいた生き方をめざして共に学んでいきたいと思います。

最後になりましたが、本研究の推進にあたり懇切な御指導・御助言を賜りました熊本県教育委員会並びに上天草市教育委員会の先生方に厚く御礼を申し上げて結びといたします。

道徳アンケート結果

アンケート実施(87名)

- ①道徳の時間は好きですか。
②友達の考え方を理解しようと思って聞いていますか。
③道徳での学びを生かしていきたいと思いますか。
④「なりたい自分」に近づけていますか。



視点3 学習の基盤づくり

- 規律集会を行ったことで、学習の構えを全校で共通理解することができた。特に、話の聞き方に関して効果があった。

○各教科において話し合いの仕方等を共通実践してきたことで、考え、議論する道徳科の授業づくりへつながった。



児童の作文より

「みんなでえいえいおー！」
わたしは、一ねんせいになつて、まいにち
とってもがっこうがだのしいです。ともだち
やせんせいとあそんだり、「あしたらしい
ようをいたりでわからなーんせんきにな
うれしいです。わなしのくらすのもひより
は、えがおいっぽいあそび」、まなぶ一ねんせ
い。「しょうけんあいえいえいおー！」です。
あいことばは「えいえいおー！」です。みんな
でいうと、ちからがわきます。うんどうがかい
のとき、はじめのことばにえらばれて、どき
どきしたけれど、おうちでわかれあさんと、お
ねえちゃんとまいてちられんしゅうしてがんば
りました。うまくできなくてめぞらしいときは
いつもたすけてくれるがぞくがだいしきです。
どうわはづづよががいのときは、「まいにちわ
ます。

んどくをしてれんしゅうひづけました。せ
んせいが、こえのだしかたや、よみかたをい
しえてくれて、とつてむじよらずとほめてく
れでうれしかったです。「くらすのみんなもと
つてもがんばっていました。みんなで、えい
いおー！」でがんばれました。せんせいが、だい
ひよりでわなれませんで、せんせいやがんばってき
きよらまでいっしょうけんあいがんばってき
たこころがひとつもすてきといいました。だ
れにでもでききいことだよ。すてきなこころ
だね。とおしゃれてくれました。

一ねんせいになつて、たくさんがんばれる
のは、みんなとちからをあわせて、えいえい
おー！をしたり、「がんばってつづけるこころ
が、すこしづつわざくくなつているからです」
つぎは、「きゅうそりたいがいをがんばりま
す。